

# 福祉生活病院常任委員会資料

(平成26年4月21日)

## 【件名】

- 1 厚生病院での患者情報入りUSBメモリ紛失事案の発生について  
(病院局総務課) …… 1
- 2 鳥取県立中央病院建替場所の検証結果と防災対策の基本的な考え方  
(病院局総務課) …… 2

病 院 局

# 厚生病院での患者情報入りUSBメモリ紛失事案の発生について

平成26年4月21日  
病院局総務課

患者12名の氏名や病名、療養状況などの個人情報が入った記録媒体（USBメモリ）を厚生病院職員が院内で紛失する事案が下記のとおり発生しましたので報告します。

## 記

### 1. 事案の概要

#### (1) 紛失の経過

- ・看護職員（30代 女性）が、3月上旬より看護研究のデータとりまとめのため、患者12人分の情報を病院内のパソコンで作成し、私物のUSBメモリに保存して病棟内の個人用書類入れで管理
- ・3月23日（日）の勤務終了後に看護研究作業のため使用し、その存在を確認
- ・3月28日（金）に使用しようとした際に保管場所がないことを該当職員が覚知
- ・その後、該当職員がUSBメモリを自力で検索するものの発見に至らず、4月11日（金）に上司に報告し、紛失を病院として認識

#### (2) USBメモリ内の情報内容

- ・氏名、年齢、病名、皮膚の状態、体温・血圧等看護、療養上の情報

#### (3) 紛失発覚後の対応

- ・4月14日（月）に緊急の院内幹部会議を招集し、事実確認を行うとともに対応策を検討
- ・4月15日（火）に情報紛失に係る患者様若しくはその御家族に対し、電話で状況説明及び謝罪（今後患者宅を訪問して丁寧に状況を説明し、改めてお詫びする）

### 2 対応

(1) 再発防止策として、4月16日に病院事業管理者名で以下を通知

①個人情報の取扱い及び管理の徹底

②研究活動、発表等医療職の研究活動の事情を考慮し、私物のUSBメモリの使用を認めてきたこれまでの取扱いから、患者情報等個人情報の保存が業務・研究等で必要な場合は、暗証番号付きの病院管理のUSB使用及び利用歴の管理を行う取扱いに改めた。

(2) 紛失したUSBメモリは発見に向け引き続き検索する。

# 鳥取県立中央病院建替場所の検証結果と防災対策の基本的な考え方

平成26年4月21日

病院局総務課

現在策定を進めている「鳥取県立中央病院建替整備基本計画」について、先の2月定例会での議会意見を踏まえ、現在地（鳥取市江津）での建替を行うに当たっての場所の検証及び洪水等防災対策面での検討状況を報告します。

## 1 現在地の状況

### (1) 洪水

- ・鳥取市の千代川水系洪水ハザードマップ（H21.3）（100年に一度の規模の大雨での洪水を想定したもの）
  - ・・・現在の中央病院建物付近は0.5～1.0mの浸水（別紙1参照）

### (2) 津波

- ・鳥取県津波対策検討業務報告書（H24.3）での検討結果
  - ・・・千代川河口で1.79mの津波があるものの中央病院付近は津波の影響はない（別紙2参照）

（洪水・津波被害に対する専門家の主な意見）

- ・中央病院付近は河口から距離があり（2.2km）、津波の浸水のおそれはない。
- ・洪水時に津波が発生した場合は、洪水による河川水量や水流の勢い、河床や川岸への摩擦抵抗等により津波のエネルギーは減衰する。
  - 河口部分で予想される最大の津波高1.79mは、中央病院付近では若干嵩上げがある程度であるが、いくらとまでは言えないので、最大で1.79mを想定してあれば問題ない。
- ・急性期病院であり交通の要所に立地することは重要
- ・洪水や津波対策として、重要なものは2階以上に設置する、或いは盛土等の配慮は必要
- ・余り過大なものではなく、浸水しても機能するような一定の対策を講じればよいのではないかと。

※専門家：鳥取大学教授、千葉大学大学院教授、近畿大学名誉教授

（河川・海洋工学、建築計画・医療・福祉施設計画、建築構造）

## 2 上記を踏まえた検討状況

地震対策として一般に普及している免震構造の高さを利用して浸水しないレベルまで床面を上げることとし、現外来棟の南側での建替を計画している。

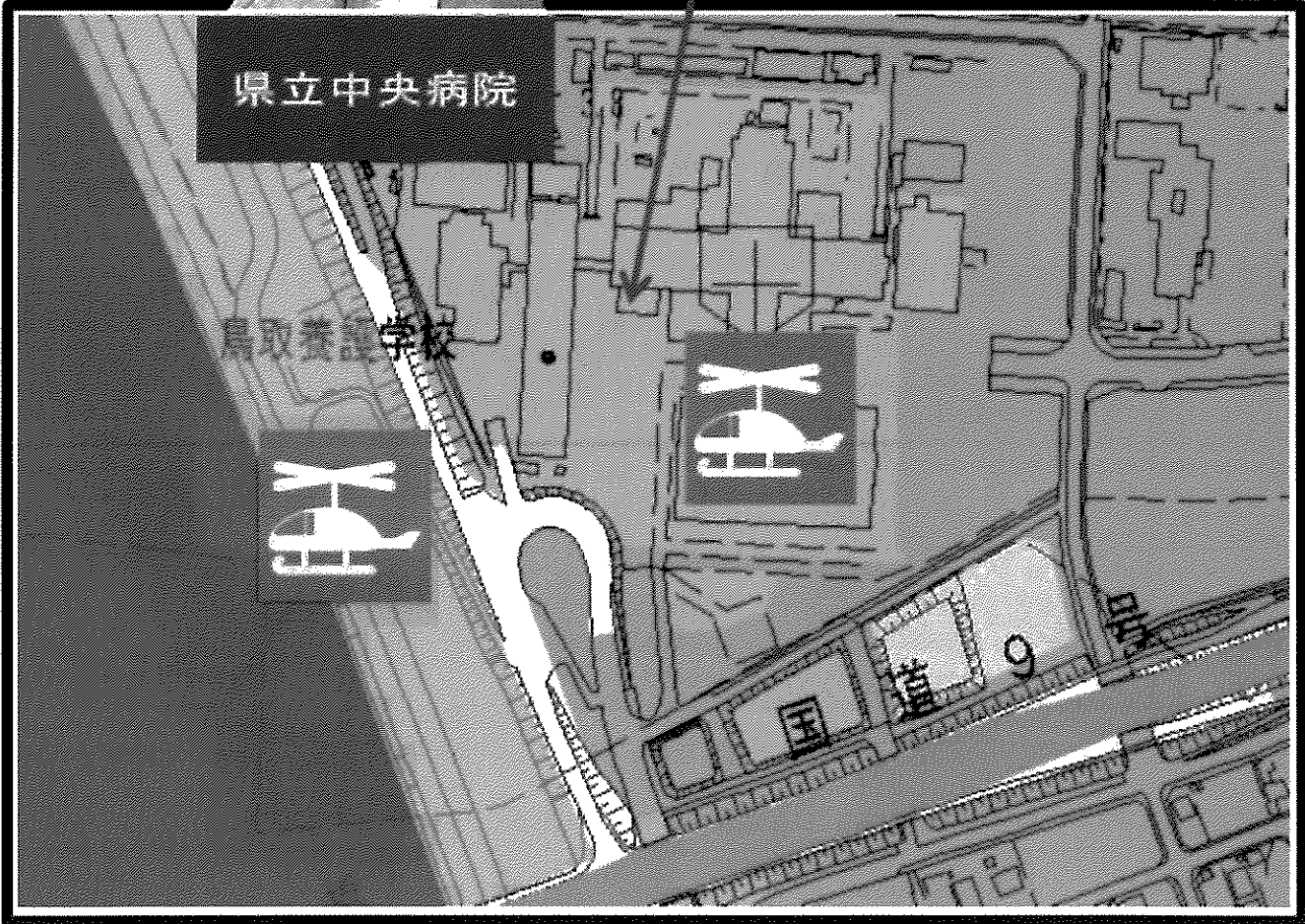
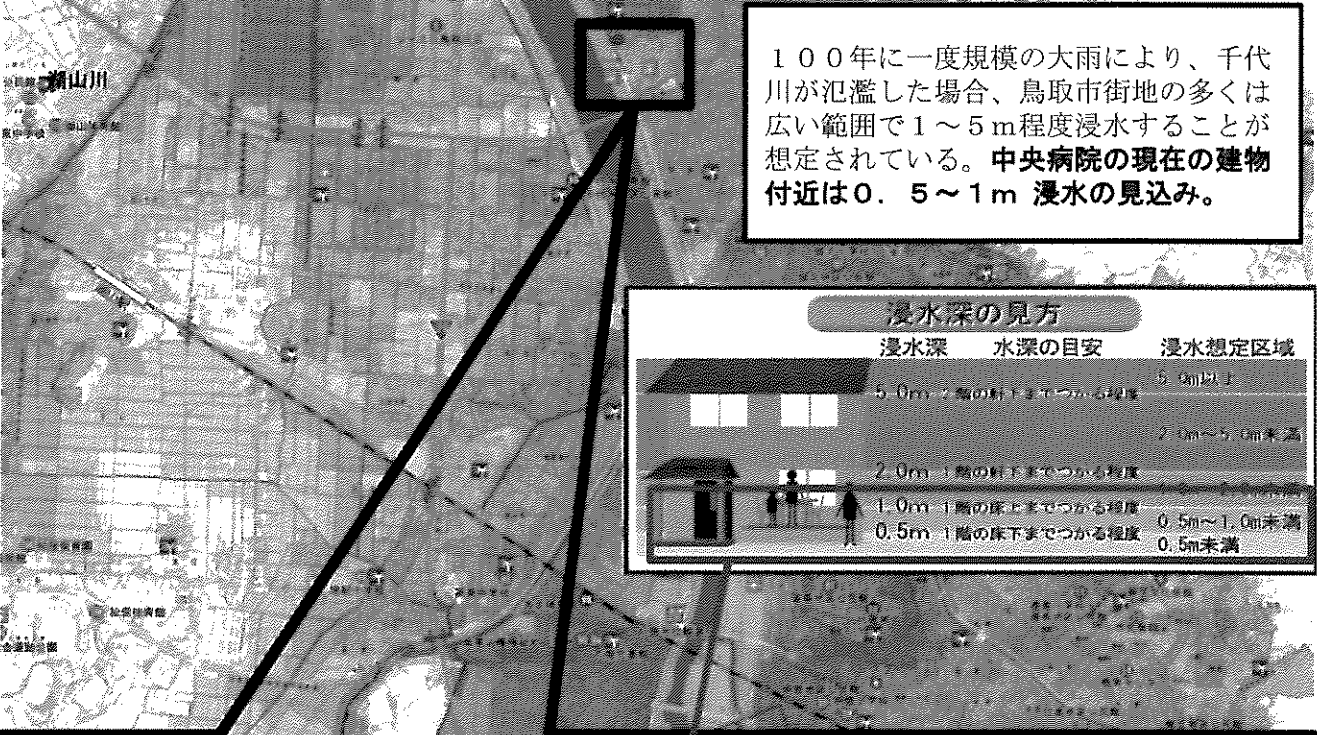
（別紙3、別紙4参照）

（参考）基本構想で現在地を立地場所とした理由

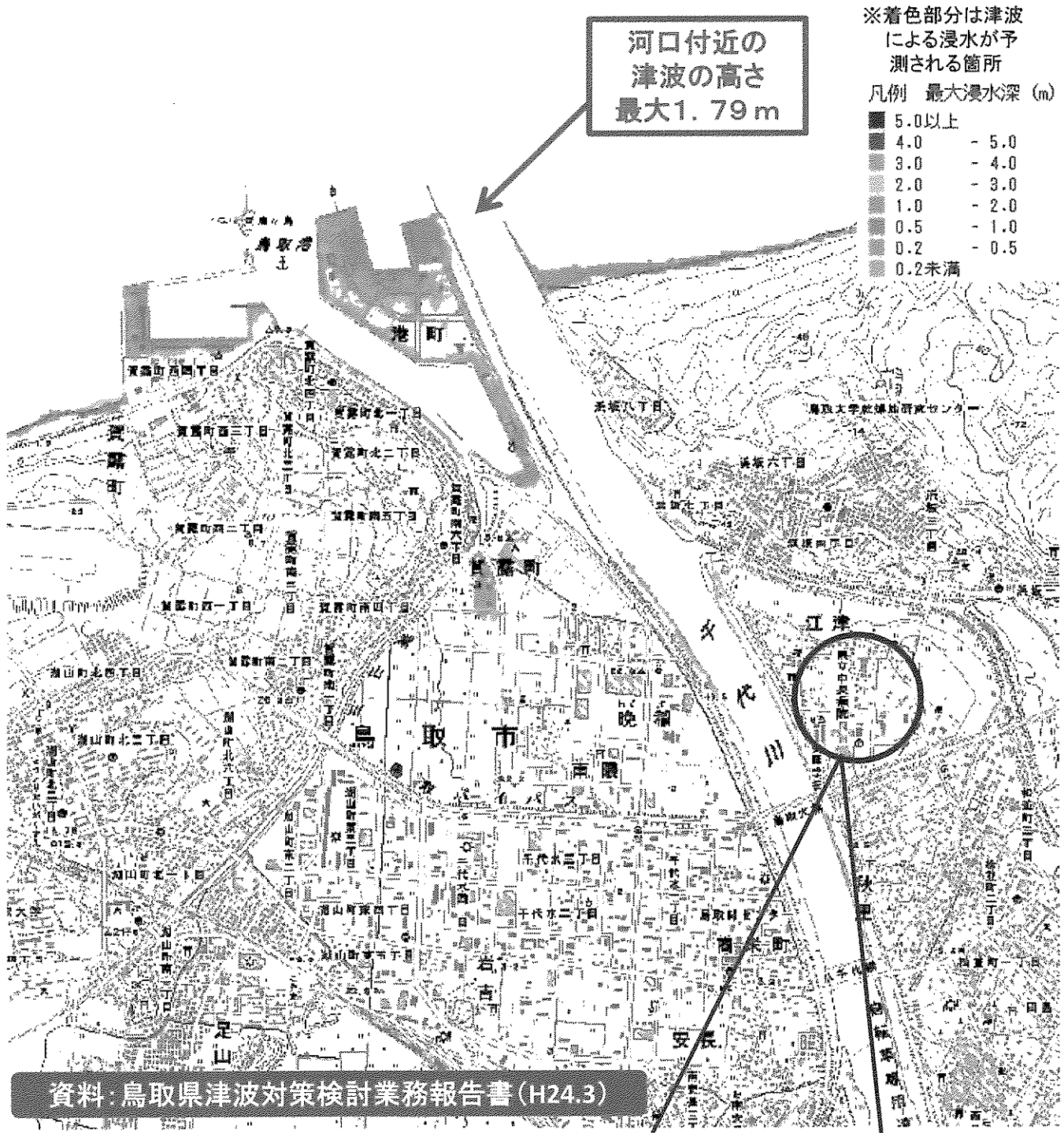
- ・鳥取自動車道、山陰自動車道等高速道路とも近く、国道9号線、29号線との接続がよく、救急搬送の時間が短いこと。
- ・中央病院は三次救急医療を担っており、鳥取市内はもとより、鳥取県東部圏域、中部圏域及び兵庫県北部等、圏域外からの利便性が高いこと。
- ・鳥取看護専門学校、鳥取療育園、鳥取養護学校等中央病院周辺に位置する関係機関や他の医療機関との連携が図りやすいこと。
- ・敷地に余裕があり、新たな用地取得が不要なこと。

# 鳥取市千代川水系洪水ハザードマップ(抜粋)

※平成21年3月鳥取市作成の「鳥取市千代川水系洪水ハザードマップ」から抜粋



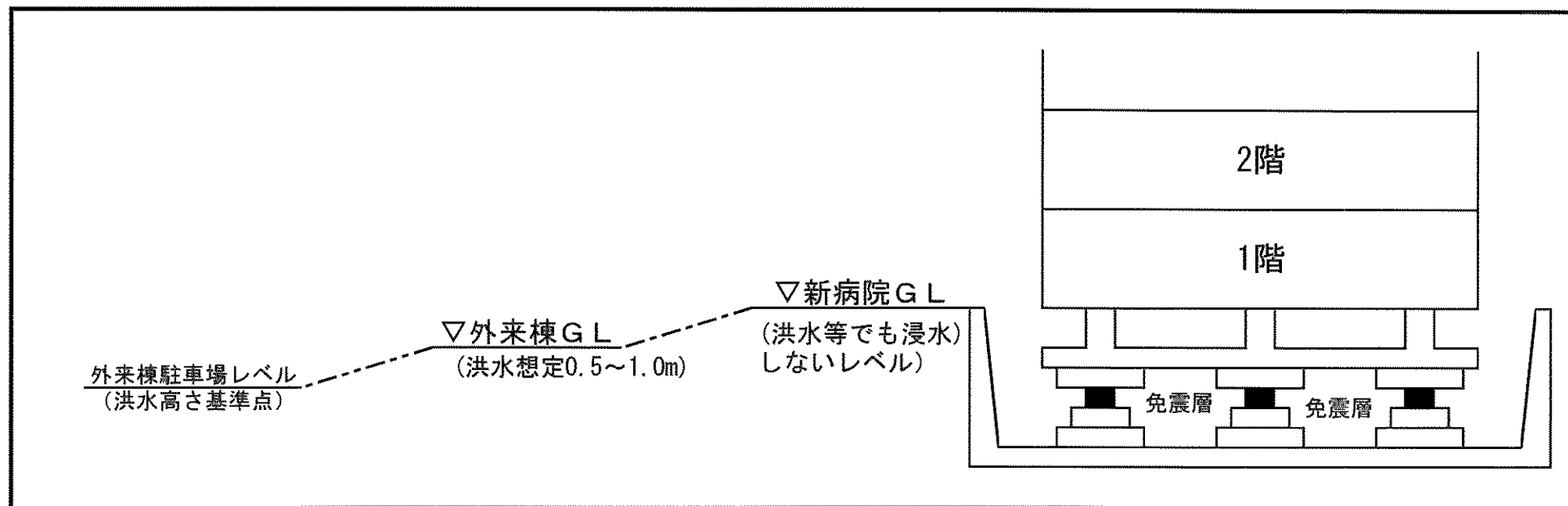
# 県立中央病院付近の津波浸水予測図



**【専門家の意見】**

- 中央病院付近は河口から距離があり(2.2km)、**浸水のおそれはない。**
- 洪水時に津波が発生した場合は、洪水による河川水量や水流の勢い、河床や川岸への摩擦抵抗等により**津波のエネルギーは減衰する。**  
⇒河口部分で予想される最大の津波高1.79mは、**中央病院付近では若干嵩上げがある程度**であるが、いくらとまでは言えないので、最大で1.79mを想定してあれば問題ない。

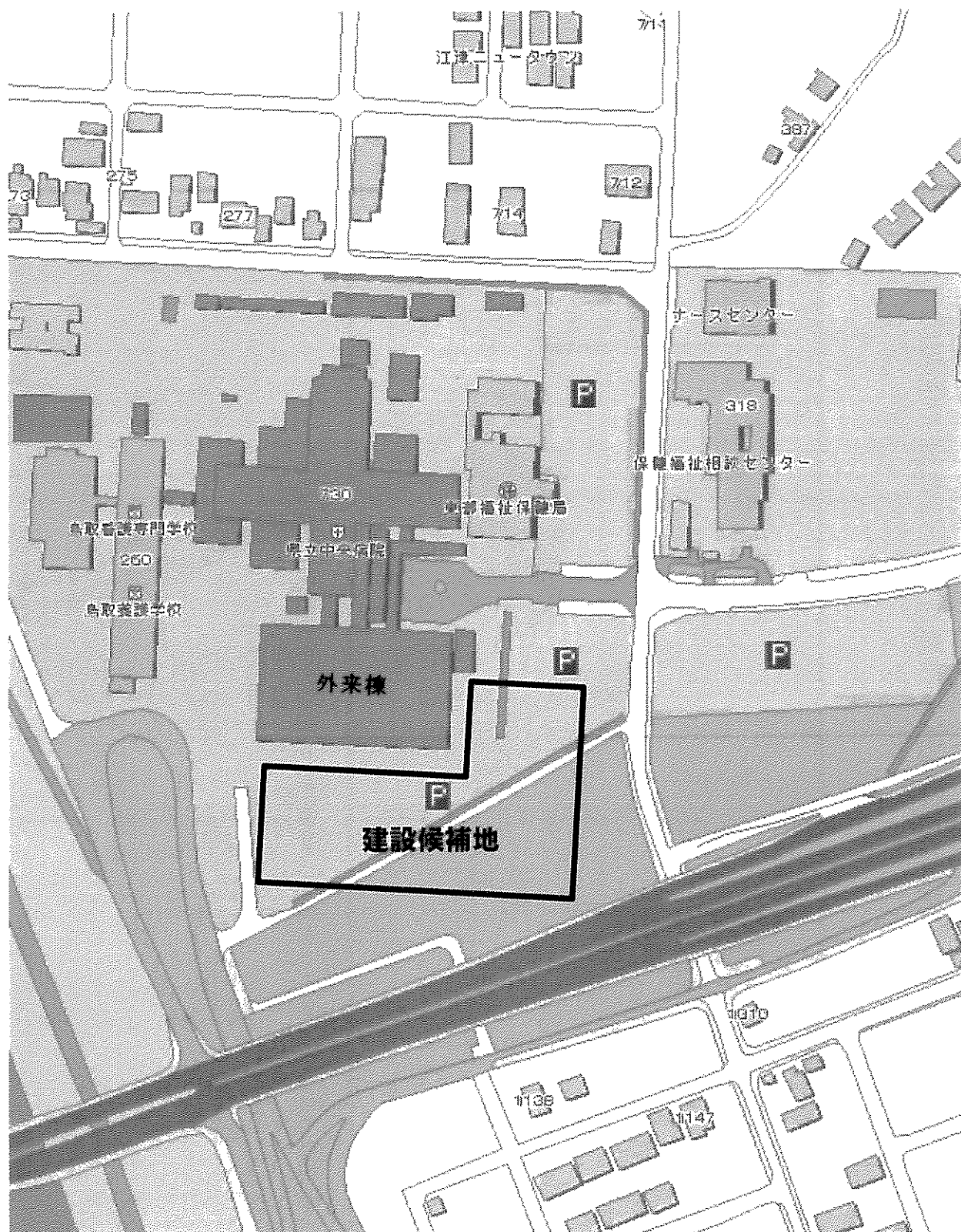
## 免震構造の構造体の特徴を活かした建物配置のイメージ



注) 上記は現時点の対策イメージであり、今後設計段階での変更があり得る。

(別紙4)

## 新病院建設予定候補地(案)



注：建物配置はイメージであり、確定していない